

樹を交ゆ。

六日、行程約九里、二臺アルタイに到る。道路澤地を通過するが故に處々に雪水溜りて泥濘を成し車行稍々困難す。一般に森林と稱すべきには非ざれども、丈餘の灌木生ひ茂り、中に梧桐、野棗を交へて、自由の展望を許さず。途上哈薩克は乘馬、纏頭は騎牛して牧羊するを見たり。

七日、行程約十里、小草湖シヤオツァオフに宿泊す、途上初めの四里餘は、路邊灌木繁茂し、其れより水なき池所謂草湖ありて短き葦蘆の密生するを認む。二臺の北方一里強の處に、空房及空營を存す。此地は即ち舊二臺にして、飲料水乾涸の爲め見捨て、現在の二臺へ移りしものと云ふ。

八日、漢三臺ハンサンタイ即ち鄂倫布拉克オルンブラク驛に着す、行程十一里強。此間初めの三里餘は平地、其れより約五里は、緩なる上傾斜、殆んど平地も同じきが如く、残り二里は丘阜亂疊の波狀地を成立せるも、急なる坂路なく、地質は黄土にして掩ふに片岩の碎石細沙を交へたるを以てするが。故に草あれど高からず。路傍山中一帶に哈薩克、蒙古人の游牧する者多し。紅柳纏頭語「ソクソツク」と稱する、灌木到る處に有りて伐て

空營と涸水

紅柳と燃料